



Title	GLOCOLブックレット16 目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2014, 16
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/50032">https://hdl.handle.net/11094/50032</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## GLOCOLブックレットの創刊にさいして

「GLOCOLブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の3領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年4月に開設されたGLOCOLは、大阪外国語大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで安住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」(intercultural communicability)をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携(コラボレーション)が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プログラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあってはじめて可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることとなります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOLブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年2月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター  
GLOCOLブックレット編集委員会

# モンゴルの食と生業の現在

Considering the current state  
of the Mongolian diet and subsistence

思沁夫[編]

## 目次

- はじめに ————— 思沁夫 — 003
- 1 内モンゴルにおける生業と食の変容：  
「生態移民」に関する一考察 ————— 思沁夫・宝花 — 009
- 2 都市と食糧供給、災害対応能力：  
元朝上都の興亡に関する生態史的考察 ————— 阿拉坦宝力格 — 023
- 3 モンゴルにおける食の慣習と社会的関係：  
肉の分配から読み解く ————— S. ビャンバドルジ — 037
- 4 チンギス・ハーン時代における軍隊の食料  
————— J. バザルスレン・T. エルデネヒシグ — 045
- 5 内モンゴルにおける干し肉の形態の変化と問題 ————— 胡格吉楽図 — 051
- 6 内モンゴルにおける乳製品に関する主要な安全問題と原因分析  
————— 達古拉 — 065
- 7 ウランバートルにおける食と人々の健康意識 ————— 岸本紗也加 — 081

